

鈴木 一平

1. 事業実施の目的

クリスの考古学的研究のための資料調査

2. 実施場所

島根県出雲市

3. 実施期日

2024 年 2 月 17 日 (土) ~ 2024 年 2 月 19 日 (月)

4. 成果報告

●事業の概要

本事業では、実施者の研究テーマである東南アジアの鍛造製鉄剣“クリス (Keris)”の年代研究に関連して、島根県出雲市の須佐神社所蔵品の調査をおこなった。日本伝世のクリスは、後年の手による変更が少なく、また年代情報を保持しているものもあることから指標資料として非常に重要である。

調査初日は出雲市立出雲中央図書館および佐田図書館で須佐神社と郷土史についての情報収集をおこなった。二日目は須佐神社宮司 S さんの多大な協力を得て、社宝のクリスと明治期の社宝目録の二点を調査した。調査三日目には島根県立出雲古代歴史博物館を訪問し、展示見学と学芸員 M さんとの面談をおこなった。

・主調査：須佐神社について

須佐神社（別名須佐大宮）は島根県出雲市佐田町に鎮座する、須佐之男命を主祭神として奉る神社である。その名は天平期の『出雲国風土記』や平安時代中期の『延喜式』には見られ、島根県内でも有数の古社といえる。境内は南東から北西にむけて伸び、本殿は出雲大社などと同じ大社造りで、切妻造りの屋根、入口が本殿中心線から右にずれるのが特徴である（図 1）。

本調査の対象である宝物のクリスは、文禄・慶長の役に際し朝鮮から持ち帰られたと信じられているもので、剣身と鞘からなり、柄は伴わない。剣身の表面はまんべんなく薄い錆が覆うが、比較的状态の良いクリスである。今回は基本計測と実測図の作成、デジタルカメラ・マイクロスコープによる撮影を実施した（図 2）。また、社宝目録である『宝物古文書臺帳』の調査もおこなった。11 枚つづりの四ツ穴大和綴の冊子で、表紙には明治卅二年九月改とあることから、1899 年の記録であることが分かる。記録の中にクリスについての記載もあり、伝来についての当時の理解を窺い知ることができる。本対象については、基本計測と光学撮影を実施した。



図1：須佐神社本殿



図2：須佐神社伝来クリスの調査風景

●本事業の実施によって得られた成果

調査1日目の出雲市立出雲中央図書館（図4）、佐田図書館での文献調査では、禁帯出の資料を中心に須佐神社や須佐神社と縁のある人物について文献、また出雲市の中世・近世遺跡の発掘調査報告書の閲覧と複写が出来たことで、須佐神社伝来品を研究対象として扱うために必要な背景について情報を得ることができた。

二日目に調査した須佐神社伝世のクリスについては、これまで鳥谷芳雄氏によって基本的な報告がなされているが（「須佐神社所蔵のクリス形剣 -文禄・慶長の役に伴う伝来品の一例-」、『季刊文化財』144号・145号合併号、島根県文化財愛護協会誌、2019年）、今回はクリス研究の視点から改めて調査できたことが大きな成果である。報告のなかったクリス差裏や細部形状、色彩、断面形などの観察により、実測図や写真に詳細に表現することができた。また『宝物古文書臺帳』はこれまで未報告の資料で、クリスの由緒を検討する上で有益な記載を含むことがわかった。

三日目の島根県立出雲古代歴史博物館（図5）訪問では、展示見学と学芸員Mさんとの面談から、出雲ではクリスとの関係が深い貿易陶磁の出土例がほとんど知られていないことを確認し、特定の個人による偶発的な奉納・伝来である可能性が高いことがより明確になった。またMさんとは、須佐神社伝世品について簡単な情報交換ができた。



図4：出雲中央図書館概観



図5：出雲古代歴史博物館概観

その他、クリスの研究上重要な成果が得られたが、その内容は今後論文として公表する予定であり、ここでは以上の成果報告に留める。

●本事業について

第一に、本調査は須佐神社の皆さまの協力がなければ実現しえないものであった。調査を快く許可してくださった宮司の S さんと、神職のみなさまに心から感謝申し上げます。また島根県立出雲古代歴史博物館の M さんには、お忙しいところを対応をしていただいた。心からお礼を申し上げます。

また、本事業による助成のおかげで、一期一会の調査機会を逃さず、納得のいく形で実施ができた。本事業に関わる皆さまにお礼を申し上げます。加えて、調査日が直前まで確定しないスケジュールであったにもかかわらず、快く対応してくださった事務方の皆さまにもこの場でお礼申し上げます。